

## 令和 4 年度 第 1 回 第 2 期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会 要点記録

- 1 日時：令和 4 年 11 月 15 日（火） 午後 6 時 30 分～8 時 30 分
- 2 場所：多摩市役所本庁舎 3 階 特別会議室
- 3 出席委員：中庭委員長、阿部委員、澤委員、梶原委員、湯浅委員
- 4 議事内容：「第 2 期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和 3 年度の実施状況の  
評価について

## □開会

## 事務局

本日 7 名の委員のうち、2 名の方から事前の欠席連絡を受けているため、予定出席者全員の出席の確認が取れたため、会を開催する。また、委員長・副委員長を互選し、決定するまでのあいだ、事務局が司会を務めることとする。

最初に、資料の確認をお願いする。郵送資料に対し別紙 1 の差し替えを、追加資料として、参考資料 2～5 の確認をお願いしたい。また、机上に委嘱状を配布しているので、氏名の確認をお願いする。本委員会の任期は令和 4 年 11 月 15 日～令和 6 年 3 月 31 日となる。資料の確認後、次第 1 委員紹介をお願いする。

## 1 委員紹介

## 各委員

資料 1 に基づき各委員及び事務局の自己紹介を行った。

## 2 総合戦略検討委員会設置要綱について

## 事務局

参考資料 2 に基づき多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略検討委員会設置要綱について説明を行った。

## 3 会議運営に関する事項の確認について

## 事務局

参考資料 3 に基づき会議運営に関する事項（案）について説明を行った。

新たにオンライン会議システムを使用した参加も可能とすることに了承を得た。

## 4 委員長・副委員長の選出について

## 事務局

委員の互選により、委員長として中庭委員、副委員長として北原委員に就任いただくことが決定した。

～事務局より司会を委員長に委任～

## 中庭委員長

本委員会が、単に前年度の評価ではなく、様々なジャンルの委員の意見を取り込み、都度具体的な事業と重要業績評価指標等について随時更新をかけ、よりよい多摩市になるよう取り組んでいくので、各委員の協力をお願いする。

それでは、次第 5 総合戦略検討委員会の日程の説明を事務局よりお願いする。

## 5 総合戦略検討委員会の日程について

事務局 資料2に基づき令和3年度総合戦略検討委員会のスケジュール(案)を説明し、内容について決定した。

【参考資料4】総合計画（長期計画）及び創生総合戦略の一体化等に関する調査、

【参考資料5】デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像について説明を実施。

中庭委員長 事務局からの説明を聞き、何か委員の方から質問があればお願いしたい。質疑がないため、今後総合計画と総合戦略の一体化を目指していくこと、デジタル田園都市国家構想については、年内に行われる予定の政府の発表が行われ次第、検討を進めていくことについて確認した。  
それでは次第6議事についてお願いします。

## 6 議事

事務局 議事6（1）「第2期多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の令和3年度の取り組みの評価について、評価方法を【資料3】多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価方法を用いて説明

中庭委員長 次に事務局より評価内容について説明をお願いします。

事務局 【資料4】多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和3年度の進捗状況を用いて説明。

中庭委員長 人口が令和3年より減少となっているが、自然減か社会減か。

事務局 自然減は平成24年から始まり、令和3年までは社会増が補っていたが、令和3年より社会減に転じ、市内の人口が減となった。減となった分析ができていないため、予想にはなるが、市内には大学が多く、今まで18歳から22歳の転入が見受けられたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、テレワークなどが台頭し、転入が少なくなったことが予想される。また、令和4年には大規模マンションの入居が始まるため、令和5年には社会増が予測される。

中庭委員長 合計特殊出生率が少し低くなってきているが、当然市の財源にも限りがあり、教育費や医療費の無償化など大々的な施策を実施するのは困難な状況である。これについてなにか質疑はあるか。

湯浅委員 私自身の周辺には子どもが3人、4人という家庭が何件もあり、共働きで保育園に子どもを預けつつ、隣接する市に住んでいる親や、周囲の家庭で支えあいながら暮らしている。そのため、市の合計特殊出生率が低くなっている点には驚きがある。

- 事務局 多摩市は、子どもが小学校に進学するタイミングで引っ越してくる家庭が多い。そのため、多摩市で産むのではなく、他市で産み、生活状況にあわせて引っ越してくる方が多いのかもしれない。それが子どもの人数に対して、合計特殊出生率が低いと感じる要因となっている可能性がある。
- 澤委員 自然減は日本全体の問題であることから、市においては人口減するものの、市民の幸福度は高いといった施策を考えていかなければならない。施策の内容が定まれば、民間企業などの協力者も増える可能性があるので、是非検討してもらいたい。
- 事務局 現在、(仮称)第六次多摩市総合計画を策定中であり、幸福度を高める施策を検討していく。
- 澤委員 企業誘致をすることは、社会増に繋がるのか。
- 事務局 企業にヒアリングした結果、即効性はなく、5年後10年後に市内に転居する流れがあるようだ。
- 中庭委員長 企業誘致をし、従業員に市内に住んでもらうには供給する住居の間取りなども気にしなければならない。従業員と定住のマッチングが叶うよう、多様な住宅供給を実現できる施策の作成をお願いしたい。  
他、疑義がなければ人口ビジョンについて確認した。  
続いて、事務局より【資料5】R4年度多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略事業評価シートについて説明をお願いする。
- 事務局 

【資料5】R4年度多摩市まち・ひと・しごと創生総合戦略 事業評価シートを用いて説明。基本目標4:ひとりでも安心して幸せに暮らし続けられるまちをつくる、数値目標②記載ミスによりA判定→B判定変更。
---
- 阿部委員 従業者数の増加について、先ほどの人口ビジョンの話にも出たが、弊社でも事業所が多摩市にあるものの、多摩市に住んでいる人は少ない。また、転職者も元々の生活基盤があるためか、なかなか多摩市に引っ越してはいない現状がある。多摩市に住んでもらうためには魅力発信は必要である。そのため、事務局には多摩市の魅力について伺いたい。
- 事務局 市民アンケート、企業懇談会で話を聞くと「緑が多い。」「子育て施策に力を入れている。」といった点の評価をいただいている。

阿部委員 確かに事業所の近くにある多摩センター駅周辺は商業施設、公園、マンションがあり、住環境レベルが高いと感じた。

委員長 他に意見はあるか。

澤委員 各目標の総合的な評価は機械的に行うでよいか。

事務局 評価は資料3 評価方法に基づき、数値で決定することとしている。しかしながら、「事務局による分析・評価」の欄で数値だけでは表せない評価を追記した。

澤委員 取組状況や、コロナを踏まえた今後の展開など、各所管が考えて行動しているのが分かり、評価を上げていいのではと感じた。

委員長 具体的な項目はあるか

澤委員 目標1はKPIの評価が時節柄Cにならざるを得ない項目もあるため、総合的にはAでもいいと感じた。目標2に関しても転入超過の数値目標は非常に達成が難しいものであり、難題にチャレンジしている。そのなかで、滞在人口率を高めることを達成するなど、転入超過を今後高めていくための基盤づくりが達成されていることからA判定で良いと感じている。他にも、努力不足でCになっているものはCであってしかるべきだが、そのような項目はなく、コロナ禍など、理由がはっきりしているものについてはCではなくバーにするなど検討してもいいのではないか。

中庭委員長 数値で機械的に進めていく評価方法については変更しないこととさせていただく。しかしながら、今のご意見を汲みつつ、今後の評価に反映させていく。

澤委員 西武鉄道が所沢を開発するなかで、所沢の特徴として「緑の豊富さ」をあげている。所沢だけでなく首都圏30km圏内の自治体の特徴が「緑の豊富さ」になってしまっているため、他市とは違う魅力を見つけるようにしていく必要がある。

事務局 指摘の通り、他市とは違う多摩市の魅力を見出すためにも、多摩市を分析していく。

中庭委員長 国が魅力のあるプロジェクトを自治体・企業が協働し創るように指示が出ている。多摩市においても企業等と連携し、プロジェクトを推進して欲しい。他の委員より意見はあるか。

湯浅委員 私自身、今回の委員の申し込みもあり、市の事業を学び興味を最近持ち始めることができた。自身の子どもは市が行う広島派遣を通じて、行政に興味を持っている。

コロナにより広島派遣などは中止となってしまっていたが、子どもが行政に興味を持ち続けられているのは、行政の教育への力の入れ方がしっかりしているからだと感じる。ただし、興味を持たなければ知ることができないとも感じたため、これだけたくさんの施策を実施していることを PR する方法を模索して欲しい。

介護関係においては、恐らく独居高齢者が増えているなかで、そのような人たちはなかなか市役所に訪問することができず、更なる孤立が進んでいると感じている。だれひとり取り残さないサポート体制を推進して欲しい。例えば、独居の高齢者が役割をもって、元気に過ごしている姿が見えれば周囲の若い世代や、子どもの世代が多摩市は楽しく明るい歳の重ね方ができる魅力的なまちだと感じてくれるのではないか。

中庭委員長 事務局よりなにかあるか。

事務局 就労関係ではシルバー人材センターがあり、登録者数は他市と比較しても非常に高い。地域包括においては、永山団地商店街に多摩市中部地域包括支援センター・多摩市中部高齢者見守り相談窓口を設置している。また、地域包括には企業や NPO 法人などの力も借り、重層的な支援体制を築いている。例えば、ヤマトグループによるネコサポステーション、福祉亭によるサロン、京王電鉄による移動販売などがあげられる。地域の様々な人の協力を得て、すべての市民をサポートしていく。

中庭委員長 そのような体制を築いていくことが、高齢者だけでなく次世代にむけた豊かな環境づくりになるかもしれないので、力を注いでいただきたい。  
他に意見はあるか。

梶原委員 通学する大学の最寄り駅と、自宅の最寄り駅を比較してみると、多摩市の駅周辺には、目につく立て看板や掲示板があり、地域の方々や NPO 法人の活動内容の掲載がされているなど、地域の繋がりは強いと感じた。他市からの人口流入を考えると、家の間取りは大事だと感じている。たとえ駅から遠くても、無印が加わったリノベーション物件であれば、若い人たちは魅力的に感じ、住まいの候補に考えてくれると感じる。緑の多い多摩を PR するのであれば、多摩の木材を使って家具を作るなどはどうか。また、多摩市には農家もあるので、移動販売の活用とともに。地産地消の PR をして欲しい。

中庭委員長 事務局からなにかあるか

事務局 UR と無印良品が連携したリニューアルの賃貸物件は非常に人気の高い物件となっているが、提供物件が増えていない現状がある。リフォーム物件が委員の方からも好評であることを貴重な意見として UR と共有させていただく。

唐木田駅は住宅街のイメージがあるが、KDDI や三菱 UFJ の事業所があり、大学もあり、唐木田駅に通勤通学をされる方も多くいる。そういった方々に有効な情報開示手段を掲示板以外にも模索していきたい。

農業関係については、聖蹟桜ヶ丘駅ではいきいき市農産物直売所や、永山駅では友好都市富士見町との共同アンテナショップポンテ、市役所付近では農協が市内農家の作った野菜の販売を行っているが、多摩センター駅周辺ではそういった場所がなく、PR 活動の課題として捉えさせていただく。

多摩の緑を地産地消として消費していく件については、剪定された木材をエコプラザでチップ化し土壌改良材に転用している。また、来年7月にオープン予定の多摩中央図書館の建設の際に、切らざるをえなかった中央公園内の木に対しても、再利用の観点から、新設される図書館内のテーブルやベンチに再利用される。市内にも伐採を検討しなければならない木もあり、有効な再利用をしなければならないが、再利用する際に、木材の乾燥に多大な費用を要するため、事業採算があわず、採用されないケースが多い。

中庭委員長 各務原市では屋内に木材を使った遊具施設を建設し、集客力が3倍になった例もある。木材は集客力があるので、他の商業施設などと組み合わせ、集客の武器として検討して欲しい。

澤委員 京王でも、京王ライナーご乗車のお客様に限定木材コースターをプレゼントしたところ、ライナーの乗客数が伸びたと聞いている。

事務局 市では小学生に対し、八ヶ岳への移動教室を行っており、木の伐採やコースターへの再利用、学校によっては校庭に活用するなど、林業に対し体験的に学べるようにしている。

中庭委員長 空き家の対策について伺いたい。ニュータウン地域は空き家の活用について検討中なのは理解しているが、既存地域についてはどのような対応していくのか教えていただきたい。

事務局 住宅マスタープラン作成の際に、空き家調査を行っており、調査結果としては、空き家数は少ないものであった。また、現在市は表立って具体的な空き家対策については行っていない。理由としては、今のところ空き家にはならず、建替えられ循環しているケースが主となっている。ただし、それが長く続くとは限らないとも考えている。バスを使わなければならない地域については、今後空き家が出る可能性もあるため、対策の検討を進めていく必要があると感じている。一方で、関戸3丁目の平屋の空き家においては、行政ではなく、地域の方々がコミュニティスペースとして活用する取組が始まりだした。

- 澤委員 住宅は広告などに出れば現在買い手は割とすぐに見つかるが、売り手が名乗らないパターンがあるのではないかと。親から相続する際に、親が苦勞して手に入れた土地を自分が住んでいないにしろ、すぐには手放さないのではないかと。空き家と認定された際に、税が高くなるなどの法令が制定されると、更なる循環が進むのかもしれない。また、学生マンションなどを所有する大家さんなどは、現在空き家状態であるものの、高齢なことから投資能力がなく、建て替えなどができない状態もあると聞く。そういった人たちを支援する制度などがあるといい。
- 事務局 既存ストックを活用し、いかにして地域に還元していくかを検討していく。
- 澤委員 賃貸物件の更新は若い世代の流入にもつながることであり、多摩に住みたいという若い方は多いと聞いたことがある。
- 湯浅委員 若いアーティスト集団が多摩を拠点に活動したいという声も聞いたことがあるが、住宅の価格や間取りのマッチングが上手くいかないなどがあると聞いた。そういった若い人たちのチャンスの芽を見出す施策を実施して欲しい。アートと福祉のつながりは注目される面もあるので、是非検討していただきたい。
- 事務局 新築物件は賃貸料が高くなる。中古物件を借り手自身がリノベーションし、安く賃貸する例もある。行政が主体となつて行える事業ではないが、売り手、買い手、借り手それぞれが、様々な居住区確保の方法があることを学んでもらう場づくりをしていきたい。
- 中庭委員長 それでは、評価についての取り纏めを行う。事務局の評価に対し、異議のあるものはいるか。  
異議なしと確認した。次に次第（２）その他について説明をお願いします。  
令和３年度の評価を、基本目標１が B、基本目標２が B、基本目標３が B、基本目標４が B、横断的な目標１が A、横断的な目標２が A として決定した。
- 事務局 次回の日程について説明。詳細は別途報告とする。
- 委員長 それでは本日の委員会を終了する。

以上